

◆ 地域通信 ◆

コロナ体験記～日ごろの備えのすすめ

今年の1月中旬、家族の一人が「陽性者と接触した」と連絡を受けました。「濃厚接触者ではない」と保健所から言われましたが、大事をとって仕事を休み自宅にこもっていたら、まずは「接触者」と言われた一人が発熱、その後3日で順々に全員発熱、検査の結果4人全員が「陽性」と判明しました。

不幸中の幸い、みな1～2日間39℃程度の発熱だけで回復し、「発症から10日」と言われる療養期間の約1週間、大人4人が「元気な自宅待機者」となったわけです。

初陽性から3日目にパルスオキシメーターが、5日目に一人分の「自宅療養セット」が届きました。最初、自宅療養セットは「陽性者1人に1セット」と言われましたが、陽性者が爆発的に増える中、「1世帯1セット」に変更になりました。中身は設定どおり、1人が1週間から10日程度食いつなげるものです。(写真参照)
不足分は自力での調達が必要でした。別に住む家族が頼れたので無事過ごせましたが、日ごろの備えの大切さを痛感しました。

廿日市市は自然災害に見舞われることも少なく「自助」を軽く考えがちでしたが、これを機に「備え」をしっかりといていこうと思いました。(廿日市市在住 Aさん)



記事協力 佐伯文芸クラブ 代表 今田進

今は昔、折敷畳を攻める相良と毛利軍のことを話そう。
毛利元就の次男、吉川元春と福原は陶の馬印を目標に原の三石から折敷畳の東にある岩山を登った。馬印とは戦陣で大将の馬側に立てて、その所在を示す旗をいう。

相良遠江守の軍勢は灯をともさず、大声をたてず攻め登った。城の留守居には林阿波守兼広を置き、先陣には一番に桑原加賀守頼信、二番には杉原周防守武任、三番は栗栖右馬之丞信広、四番に頼治、五番は土井正広と決めた。

後陣として山村河内之介、福治五郎、品川弥兵衛、安部十郎、登尾七郎左衛門、大原新太郎、大原六郎、山田源五、岩原庄内、大谷五郎、大橋甚五が攻めることになり、その夜の合いことばを「竹・木」と決めた。

その相良隊は地元の農民に道案内させ、軍勢を三千、四千と分けて峠、永原の山々や谷から本通りの道を別々に進んだ。手には数百挺の鉄砲を持ち、静かに進んだ。

一方、毛利軍は宍戸安芸守、坂新五左衛門、坂藤三郎兵衛を頭に白砂村から玖島村に忍びこんで大沢の東にある山の、みこしの峠といふところで合図の狼煙(のろし)をあげた。この合図で相良と毛利一味の軍勢は一手、二手と、どうと闘の声を合わせた。

両軍は友田から日市間の三里半を百姓たちは一万余りの提灯や松明で道中を照らし、寅の上刻(午前3時)から陶方との合戦が始まった。法螺貝や太鼓が鳴らされ、その音が山や谷々に響きわたって百雷のよう、百千万尋の奈落に落ちるかと思われるほどだった。

このように相良軍は河津原の中山城から、毛利軍は白砂村(湯来町白砂)方面から折敷畳をめざして攻撃した。

その八 相良と毛利軍の語(こと)

佐伯・今昔物語

お問い合わせ先 廿日市市市民活動センター
廿日市市住吉2-2-16 ☎0829-32-3741 fax0829-32-3742
HPアドレス <http://www.hatnet.jp/>

ネットワーク現在の状況
(令和4年3月末現在)
登録団体 151 団体

一市民活動情報紙一

さくらde ファミリー

廿日市市市民活動センター
令和4年春号
Vol. 59

令和4年度提案型連携事業の募集

★連携事業実施の目的

市民活動センターに集う登録団体同士が連携し事業や活動を通してお互いに支え合うことで他の団体に興味を持ち、理解することによりそれぞれの得意分野を活かした、よりよい活動が展開されることを目的として実施します。

募集期間：4月1日（金）～5月31日（火）

応募方法：事業提案書を作成し、市民活動センター受付に提出
(提案書は受付にあります)

審査・選考：6月9日（木）16時～ 運営協議会にてプレゼンテーション

その他詳しい内容につきましては、応募の手引き、またはホームページをご覧ください。
お問い合わせは、センター受付まで

ネットワーク登録更新書類の提出〆切がせまっております！

2月初めに送付いたしました新年度の登録更新書類の締め切りは、3月末とさせていただいております。
ご提出がお済みでない団体担当者の方は、いま一度ご確認をよろしくお願ひいたします。

退会予定（更新されない）の団体の方も、ご連絡をお願いいたします。

3階 作業スペースが使いやすく進化しています！

丁合機

修理が完了しました

電動裁断機

コピー用紙をA3からA4サイズへ裁断など（一度に一般コピー用紙 最大150枚まで）

極厚対応2穴パンチ

冊子など綴るのに便利です。（一般コピー用紙最大165枚までの厚さに対応）

お知らせ

★3月5日に予定しておりました登録団体代表者研修会は、まん延防止対策期間により中止となりました。

★今年度の活動報告ポスターの提出をお待ちしております。

GW休館日

4/29(金)・
5/2(月)～5/5(木)
ご利用の際はご注意を！



廿日市混声合唱団 結成30周年記念コンサート♪

日時：令和4年5月22日（日） 13:30開演
場所：ウッドワンさくらびあ 大ホール 入場無料（要 整理券）

掲載希望の方はセンター受付まで！
次回60号は6月末発行予定です。





今回は新しくネットワーク登録団体に加入された2団体をご紹介します。

廿日市句会

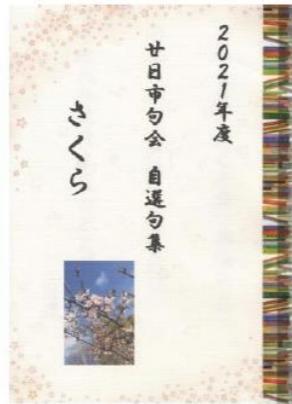
廿日市句会は、2016年1月に発足いたしました。趣味として俳句を続けるため、自分たちで会を立ち上げ、7年目を迎えました。現在、会員は7名です。活動は毎月1回、月末の金曜日に実施しており、年1回吟行をします。今年度は、密に気を付けながら広島市植物公園に行きました。

毎月の句会は、9:30~11:30の2時間行い、句会の前日までに、自由句を3句作り、事務局に知らせます。句会当日は、全21句を披講して選句します。特選2句、入選4句を選びます。選句をお互いに発表し合います。多く選ばれた句から選句した理由や作者の意図など意見交流して添削します。

最後に紹介するのは、句集「さくら」です。一年間の30句から自選3句を決めて、句集「さくら」を作っています。

自選句集「さくら」より

手繰る度ぐんぐん空へ五連廻	安穏
いっせいに飛び立たんとす白木蓮	こゆみ
紅葉やハンドル軽く里帰り	のこ
桟の鳴りて西も東も花の山	みき
ふくらみて波追ふ波や瀬戸の春	かとけん
寒鯉の朱を鈍らせて岩の陰	ささら
青空の半分ミモザ咲きにけり	直人



お問い合わせ

廿日市句会
事務局 広瀬 安高
☎0829 (32) 2302

しゃべりばヒロシマ

わたしたち「しゃべりばヒロシマ」は、わたしのヒロシマ あなたのヒロシマを、ひとつひとつ拾い上げ、その事実を記録し、その記憶を伝え、みんなの共有財産にしていきます。

誰もがふつうに暮らせる社会の仕組みを考えます。そして、世界のヒロシマに思いをはせ、非核・反戦・平和な世界を創る歩みを共につづけていきます。

昨年12月18日には、山下三郎さん被爆体験を語る～平和を求めて 地方自治の歩み～を開催いたしました。参加者の方からは、「実際に被爆された方のお話を聞くのは初めてでした。市長という立場での平和・反核に向けた活動も知ることが出来て、非常に有意義でした。核廃絶までの道のりはまだまだ長いですが、くじけずに続けていかなければならないと思う。」「元廿日市市長の山下さんの貴重なお話を聞くことができ、大変素晴らしい企画だと思いました。ぜひ、多くの若い世代に伝え残していただければと思います。」など多くの感想を寄せていただきました。

ひとりひとりが思うヒロシマをしゃべる会を、毎月第4木曜日14時30分から16時30分に「杜の花畠」で開催しています。予告なく変更することがありますので、事前に連絡をいただければと存じます。地域の戦争・被爆関連史跡・体験を語ってくださる方の情報もお待ちしております。

しゃべりばヒロシマ 代表 楠本 昭夫

お問い合わせ

杜の花畠 廿日市市串戸3-23-5 ☎0829 (38) 3027 (FAX兼) 今田
メールアドレス morinohanabatake2016@gmail.com

はつかいち ふるさと弁当

廿日市小学校では、毎年5年生の総合学習で、校内で稻を育て、お米を収穫するという学習をしていました。一昨年までは授業時間を使い、収穫したお米と廿日市の野菜で、それが自分のお弁当をつくるという地産地消の学習でした。昨年からコロナ禍ということもあり、企業とコラボレーションしてのお弁当作りが始まりました。今年は廿日市市産業振興課が音頭をとり、廿日市小学校と廿日市の企業わたらやごちそうデリカがタッグを組んで、けんだま100周年を題材にした廿日市ならではの特別なお弁当を企画し販売しました。

食材が豊富で彩りも華やかで、大変美味しいいただきました。



5年2組弁当

